

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム きずなの郷
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代市古閑下町2225番地
記入者名 (管理者)	神原 都
記入日	平成 20 年 2 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>・理念の共有を図るためにも掘り下げて、具体的なケアについて意見の統一を図るために取り組んでいきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	<p>・近くの公園に出かけられ子供たちと気軽に声を掛けられたりして触れ合いをされる</p> <p>・天候や状態に合わせ、外出機会の増加が出来るように計画していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>・地域の子供達を含む交流会や老人会やいきいきサロンの行事への訪問参加の検討をして行きたい。 (運営推進会議内で取組検討中)</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・近所の家族より認知症の相談を受けたり、数時間一緒に過ごしてもらい家族に雰囲気を感じてもらったりしているが地域での学習会などの開催は行っていない。	○	・人材育成の貢献として、小中学生ボランティアや高校生の実習などの受け入れも取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価や外部評価の目的や意義をミーティング等時伝えて、それぞれで自己評価に取り組むようにしている。	○	・職員全員でゆとりをもって取り組めるように計画的に実施していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・事業所からの報告と共に参加メンバーからの質問・意見・要望を受け、その経過を報告し合いそこでの意見や内容をスタッフに報告し、サービスに活かしている。	○	・自己評価や外部評価、結果・評価で明らかになった課題について運営推進会議で報告し、これからの改善や取組の方向性を説明・提示して行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市町村担当者とは運営推進会議以外でも折りにふれ相談や報告、行事への参加も声掛けし受けてもらっている。	○	・市町村担当者と利用者や職員の交流回数が増えるように計画し案内していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・利用者・家族・職員共に地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会や情報提供等の機会を持っていない。	○	・これから少しずつ勉強する機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持っていない。	○	・これから少しずつ勉強する場を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は需要事項説明や事業所のケアに関する考えや取り組み又、対応可能な範囲について説明、利用料金についても基本料金や経費・その他の出費となるものは事前に説明を行い納得を得るようにしている。	○ ・利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、Dr・本人・家族等と対応・方針を相談出来る時間を持てるようにしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者の言動・態度から本人の意向を察する努力をし、家族からの思いや気づきがあった場合はすぐ職員に伝え改善や支援方法を検討している。	○ ・利用者・家族一人ひとりの声が聞ける時間をとり、要望や意見を出してもらおう機会を作る。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・必要時は都度々電話で状態報告を行い、家族の訪問時は近況報告して日頃の生活振りを写真や手作り作品などで見てもらう。	○ ・本人からの便りとして年賀状・暑中見舞い(スタッフ共同で)を出したり、季節行事等の参加のお誘いも継続していきたい ・ホーム便りも発行していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見や不満、苦情・気づきなどを受け止める言動を、契約時や日々の訪問時説明や言葉かけなどの機会を作っている、又市町村の相談窓口設置も説明する。 ・家族の気づきとしてミーティングなどで話し合い改善を図っている。	○ ・苦情など、家族から出しやすい雰囲気作りや、日頃のコミュニケーションを密にし定期、利用者のケアに活かしていく取り組みをする。 ・苦情、不満、気づきも苦情として記録に残し、検討して質の向上に繋げる取り組みをしていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティングや月1回の勉強会などで意見を出してもらっているが、日頃よりコミュニケーションを図り、食事会などを行い問いかけや本人からの言いやすい雰囲気づくりも行っている。	○ ・心身ともに健康でストレスが軽減できる発散方法を個々に合わせて取り組んでいきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・管理者は状況に応じた対応ができるようなシフトにして、夜間の対応や利用者の状態変化に応じた対応ができるようにしている。 ・必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	○ ・これからも必要に応じた、利用者の思いに沿った暮らしの支援が出来るよう、利用者の状態やペースに合わせたローテーションの取り組みをしていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・離職を最小限にとの思いは強いが、極力利用者や家族への不安・不満が出ないように、職員間でカバーし配慮している。	○ ・新人スタッフは事前に数回訪問してもらい、顔なじみや利用者の把握などが出来るようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・開設にあたり認知症ケアに対する研修や現在も研修を受けている。 ・事業所外での研修にも多くのスタッフが受講できるように、ミーティングなどでも話し、必ず誰かが参加できるようにしている。	○	・自己のケアの振り返りや質の向上のためにも、研修や実習参加を図っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県・市のグループホーム協会へ加入している。 ・他施設共に行き来し、情報交換や事例検討会を通じて事業所外の人の意見・経験をケアに活かしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・午前中と午後にお茶の時間・昼食時も1時間もうけ会話しながら、表情や、日常の言動の変化に気をつけ、十分話しを聞き、ストレスや悩みを把握・解消したいと思っています。	○	・職員によってストレスや悩みの感じ方が違い、十分話を聞いたり・個々への対応や職員同士の人間関係も把握するように努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・同じ仕事をするなら「楽しい職場づくり」をモットーに健康診断の実施や親睦会など職員の心身の健康を保つようにしている。	○	・資格取得や実践的効果に向けた支援を行い、取得後も技能をもっと活かせる労働内容に努めたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・本人に会い話をよく聴き、本人を少しでも理解し、受けとめるようにしている。	○	・家族の思いが強く出ている場面が多いが、事前の訪問回数や新しい環境に慣れられるための安心感につながるような取り組みを心がけていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談時にはなるべく家族や本人の意向を十分に聴き入れ、理解しケアにつながるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時の状況によっては、介護・看護・CMなどとの連携も取り、早急な対応が必要な場合は可能な限り柔軟な対応をおこなっています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・雰囲気をつかってもらうためにも、本人・家族が見学してもらうことから始めるが、やむを得ずすぐ利用となった場合は、御家族や関わっているCMなど関係者などと訪問してもらうなどして安心感を持ってもらうようにしている。	○	・本人が納得されないままの入居ケースがある(家族の入院等の都合による場合もある)、本人の気持ちや思いに添った言葉かけで安心した日常生活や環境に慣れられるように、スタッフのケアの統一を図っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・支援する側の思いが先走りしている感もあるが、利用者を人生の先輩であるという気持ちをもとに喜怒哀楽を共にし、利用者の和やかな生活が送れるような場面づくりや声かけをしている。	○	・理念に基づき利用者の得意分野を見極め・理解し、出来ることの役割を多く持たれ達成感・満足感が得られるように取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族の思いや情報交換を密に行うことや、共に利用者を支える姿勢で自然な人間関係が築けるよう努力しています。	○	・日々の職員間の情報の共有を確実にし、利用者・家族との会話や情報交換・コミュニケーションが多く取れるように居室担当を決め関わりを深められるようにしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族・本人の思いや状況を見極めながら、外出・外泊で家族と過ごされるよう対応したり、ホームの行事に家族を誘ったりしながら、良い関係の継続が出来るように努めている。	○	・利用者の希望時や季節(暑中見舞い・年賀状)にはハガキや手紙をご自身で書かれるように介助したり、必要時は訪問の電話連絡し、夏祭り・敬老会・慰問等の行事計画予定は事前に声かけやご案内を文章にて各家庭に発送している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・親類等の集まれる行事や知り合いの人の見舞いなど家族の希望時には、利用者の状態も双方で検討して一人ひとりの生活習慣や関係を尊重している。	○	・行きつけの美容室利用や補聴器など本人の思いを家族と連携を取り、継続的な交流が出来るように働きかけている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士の心身の状態変化や気分・感情で日々・時々変化することもあるので、関係性についてスタッフが情報を連携、注意深く見守るようにしている。	○	・利用者同士・スタッフで楽しく過ごす時間や気の合う利用者同士の過ごせる場面づくりなど、関係性が円滑になるような働きかけをしている。 ・居室で一人過ごされる時間が少なくなり、声掛けし・無理なく楽しい時が多く持てるように職員が調整役となり支援していききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・家族(長女)の希望で他事業所へ転居されたが、本人とはお会いしてはいないが、他事業所の管理者と情報交換している。	○	・他事業所へ転居された家族(二女)より相談連絡があり、話を聞いたりアドバイスをしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で声を掛け、状態・状況の把握に努めているが、意思の疎通が困難な方にはご家族や関係者から情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご利用者自身の言葉や家族・親類・知人等の訪問時など少しずつ、生活歴などをうかがっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・利用者一人ひとりの生活リズムや行動等で、出来ること・出来ないこと・好まれることなどを把握している。	○	・出来られ、好まれることに目を向け、1日の生活の中で役割を持ち、達成感や満足感が得られ生活のリズムがきちんと出来る取り組みをする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・利用者や家族の要望を聴き、一人ひとりのニーズにあった個別の具体的な介護計画を作成しています。	○	・アセスメントやモニタリングをスタッフ全員で行い、意見交換を職員会議等で行い、計画作成やケアにつなげ活かしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・日々の生活の中で状態が変化したときは家族に状況を説明し、利用者にも説明を行いながら、現状にそった計画作成しているが、出来ていないところもある。	○	・職員間で介護計画の評価や話し合いを行い、本人・家族と話し合い、必要に応じて新たな介護計画を作成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別ファイルを準備し、食事・水分・排泄等の身体状況、日々の様子、利用者の言葉等を記録しているが、勤務開始前の確認を全員はできていない。	○	・スタッフ全員が勤務開始前の個別ファイルの確認を確実にして、ケア記録の記入内容を共有し検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・利用者・家族の状況に応じて通院など、必要な支援は柔軟に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域の警察・民生委員・ボランティア団体などの方とは接点はあるが、周辺施設や消防などへの働きかけが出来ていない。	○	・消防訓練や緊急救命訓練等の実施を早急にした
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・介護保険外の生活支援が受けられるよう支援している。 ・利用者・家族の希望や体調に応じて訪問理・美容サービスを利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターとは、現在まだ関わりはできていない。	○	・運営会議に地域包括支援センターの職員が参加してもらえるように働きかけていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者のかかりつけ医師への受診・通院は基本的には家族対応をお願いしているが、家族が不可能や同行の必要時には職員で対応している。訪問診療を受けられるケースもあり、状態変化時には報告・指示を受け、医療機関との連携も密にとっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・かかりつけ医師(認知症専門医・認知症医療に熱心)に利用者個人々の状況を報告・相談・指示を仰ぎ、支援につなげている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・普段の状態や疾病等をよく知っている系列の准看護師や転職した看護師に相談・助言・対応を行っている。	○	・安心な生活支援のためにも、看護師・訪問看護ステーション等連携医療機関の確保を行ってきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時には、支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員も見舞いを行い、家族や医療機関担当者との情報交換しながら回復状況を把握し、退院支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・状態変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い支援している。 ・一部の家族と、ターミナルケアに向けて話しているが全員ではない。	○	・利用者家族とターミナルケアについて話し合う機会を作っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・日々の状態観察・情報の共有をスタッフ間で行い、体調変化時にはすぐに医療機関に連絡し、対応していただけるように日頃より密に連携を図っている。	○	・終末期該当はないが場合に備えて、経営者・管理者共に関係スタッフとの話し合いなど、取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・これまでの暮らしの継続が損なわれないように、生活環境・支援の内容・注意が必要な点など情報提供を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者に対する言葉遣いなど勉強会のおりに気になることは、話し合っている。	○ ・排泄の声掛けなど配慮が必要な事もあり、プライバシー確保の音量などにも注意が必要で、全職員で徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の個々に応じた時間帯で起床・入床を行っている。 ・Dr指示や家族の希望も踏まえ、利用者に納得してもらえるように説明・声掛け(時間を置いての再度の声掛け)を心がけている。	○ ・入浴は、行事等がない限りほとんど午後の入浴と決めているが、利用者の希望に合わせて行っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・理容・美容は訪問サービスを利用され、希望の髪型をカットされておられる又、中には行きつけだった美容室の方に来ていただいて希望の髪型にしてもらわれる。 ・行事や家族(娘さんの希望)との外出時など好まれるときは、薄い化粧をされ	○ ・毎日の洋服選びなど、出来る限り本人の意向で決めてもらい、本人の気持ちに沿った支援を心がけていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・日曜日など時間に余裕がある時利用者と一緒におやつ作りをしている。 ・洗濯物たたみ・テーブル拭きなど、手伝ってもらっている。	○ ・日常生活の中で、出来ることの見直しを図り、役割・達成感・意欲に繋げる取り組みを行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・おやつのお菓子や飲み物は好みを聞いたりしている。時々簡単な手作りのおやつも一緒に作っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表を使用し、申し送り時に排泄のコントロール状況を全スタッフが把握して対応している。 ・日中は体調不良でない限りは、布パンツ・排泄間隔をみて声掛け・誘導、夜間は家族とも相談し尿漏れに繋がらないようなパット使用と間隔を見ながらのパット交換をしている	○	・自尊心を傷つけないように夜間帯の排泄や良眠に繋げるような取り組みを行っていききたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・行事等がない限りは午後から入浴となっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・1日のリズム作りの為にも、日中の活動の声かけをしたり促しているが自主的参加をしている。 ・昼食後は、自室や畳の和室等で体調や希望に合わせて臥床や休養の声かけをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・個々の役割など得意分野で出来られることを発揮してもらっている時もあるが、スタッフの流れで生活されている場面もある。	○	・全スタッフで出来られることを見直し、利用者が役割を持ってもらい、スタッフの感謝の言葉などでやり甲斐や達成感・意欲の向上に繋がるように見直しを図っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・外出される場合など、(買い物など)お店に行き利用者にお金を渡しレジで支払いをしてもらおうようにしている。	○	・気候も良くなり、体調を見ながら外出の機会が多くなるように計画していききたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は苑外でお茶やレクリエーションなどを行っている。 ・天気の良い日は体調などをチェックし季節を肌で感じてもらえるように散歩やドライブなどに出かける。	○	・気候も良くなり外出する機会を作り、花見や季節を体感でき気分転換が出来る取り組みをしていききたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族の希望にて外出される(法事・近所や親類の見舞い・気分転換・習い事・食事など)機会や、自宅・家族の家へ外泊はされる。	○	・普段行けない場所への外出の支援は行っていないが、希望があれば、家族の協力も受けながら出かけられるようにしていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望時は電話や手紙(季節のご挨拶のはがき)の支援はしている。自筆の文字で出せるように支援し家族からの手紙も届いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・利用者の生活リズムに合わせ、家族や親類に都合のいい時間帯に、いつでも気軽に訪問やお顔を見せていただくように電話や声かけをしている。 ・知人の方の訪問もあり、再度の訪問の声かけもする。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日々の申し送り時に個別ケアに対しての問題点をあげ、それに対するケアが身体拘束に当たっていないかなど確認している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・寒くない時以外はドアを開けている。利用者が外に出ようとする時は、さりげなく声掛けし一緒に散歩する時間をとったり、遠目に見守りをしている。	○	・利用者が外に出たくなる場面や理由を理解しスタッフ一人ひとりが考え対応する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は利用者と同じ空間で記録などを行いながらさりげなく全員の状況を把握する。夜間は状態に応じて様子観察や、2時間ごとに利用者の様子確認をすともにも、起きられた時すぐ対応出来るように工夫している。	○	・本人のプライバシーを配慮しながら、居室へ入室する際「ノック」「失礼します」などの声かけを行う。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・利用者の状況に応じ、常時使用するものは見守りを行い、嚴重に保管が必要なもの(薬など)・誤飲になるもの(消臭剤など)は目や手の届かない所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・万が一の事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、スタッフで個別事例に対して、具体的な対策を検討し、同様の事故の再発防止に役立つように意識している。 ・ヒヤリ・ハットもいろんな場面で記録し、スタッフの共有認識を図っていきたい。	○	・ヒヤリ・ハットは日々スタッフの中にあるものなので、気づいた時に記録し、ケアカンファレンスなどで発表していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時対応マニュアルは出来ているが、初期対応の訓練や周知徹底がまだ図れていない。	○	・ひと月に1回ぐらい、応急手当・初期対応の訓練を行い、落ち着いた対応ができるようにし、意識の向上に繋げていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・計画をして運営推進会議で地域の協力体制を呼び掛けていたが、災害訓練は実行できていない。	○	・消防署・地域の方々の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、全スタッフが対応できるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・利用者一人ひとりに起こり得るリスクや気づきについて、ミーティング等で話し合い、各自把握し家族等に対して、役割や力の発揮での日常での表情等を見てもらったり、具体的に説明している。	○	・これからも、事業所の取り組みを丁寧に説明し、理解を得られるように努めていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・普段の状態をスタッフ一人ひとりが把握し、少しでも食欲や顔色、様子の変化が見られた時はバイタルチェックを行い、スタッフ間で情報の共有を図り、変化時の記録をつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人個人のファイルの頭に服薬ファイルを作成し、スタッフが内容の把握ができるようにし、服薬時は本人手渡しで、きちんと服薬できているか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・一人ひとりにあった水分補給を考え、飲みやすい好まれる飲み物で水分量を確保し、野菜やお芋類などの食物繊維を摂るように心掛け散歩や身体を動かし、自然排便ができるよう取り組んでいる。	○	・排便の身体・精神面に及ぼす影響を理解し排泄チェックの記入も継続し、利用者の状況によりDrよりの指示に沿って、薬の処方や用量が変更になった時は、申し送りをし、きちんと行い記録を取るようにする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じてスタッフが見守ったり・介助を行っている。 ・週1回、就寝前に義歯の洗浄を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分量のチェックは行っていないが、摂取量が確保できるように飲みやすい・好まれる飲み物を提供している。 ・食事の摂取量はチェックしています。利用者に応じた形態で自力摂取できるように配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・共有の場所(トイレ・手すり・ドアノブなど)は毎月消毒を行っている。手指消毒液も要所要所に設置し、来客の方にも目につく所へ張り紙をしてお願いしている。また外出後の利用者・スタッフは手洗い・うがいを行っている。	○	予防への意識の継続を図っていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・使用後必ず、道具や容器は消毒や熱処理を行っている。調理に関しては時間を置かず配膳し、作り置きをせず、残ってしまったら冷蔵庫に保管し次の日に職員が食べきってしまう。	○	・時期や行政からの配布資料を都度々、目に触れるところに貼ったり、内容を確認したりし食中毒等の予防への意識の継続を図っていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関先や建物の周囲には季節に応じた物を置き、花を活けたりプランタンや庭に花などを植え季節感を感じてもらっている。季節によっては玄関を網戸にして開け近所の方が入りやすいようにしている。	○	・近所の家庭菜園等の趣味の方がちょこちょこお花や苗、野菜などの差し入れや花作りの手ほどきもされ、継続して頂けるようにコミュニケーションを取っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・月ごとの行事を張り絵などを使って、利用者と共に作成・表現した作品を壁面に貼って楽しんでもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファや和室にて体を休ませてもらえる様に枕やクッションなどを置いたり、利用者同士の相性等も配慮した居場所づくりを工夫している。	○	・日々の状態を把握し利用者の関係性や相性等も配慮し他空間づくりをして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者が使用していた好みやなじみの物を家族が持参され居室内や入り口等で使用されている。	○	・状態把握を日々行い、利用者の安全確保も考慮し臨機応変で対応できるようにしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・利用者の体調や状況に合わせて冷暖房の調節をしたり、天候を見ながら空気の入換えをしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・家具の配置など生活空間で転倒につながる原因がないか常にチェックしています。 ・浴槽からの立ち上がり時に必要となり手すりの設置を行い、安心・安全確保と自立への配慮をしている。	○	・日々の状態把握や気づきを行い、環境の整備を行うことで安全につながる取り組みを継続していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・分からなくなった時や行動の失敗が続く時は、スタッフが話しかけ安心につなげるようにする。又スタッフで話し合い不安の材料を取り除くようにしている。 ・利用者の出来られることの見直しを行い、自立につながる暮らしができるようにしていきたい。	○	・状態が変わり、新たな混乱や失敗が生じた場合は、本人の不安を取り除けるようにスタッフ一同で話し合い、できる事を継続し意欲や自信を取り戻せるよう取り組みをしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・玄関先やベランダにベンチを置き、日光浴や涼んだり、お茶を飲んだり、歌を歌ったりしている。	○	・建物周囲のいぬ走りや駐車場を利用し散歩を兼ね、下肢筋力低下防止や気分転換を図れるようにしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

*日々の生活の中で利用者の持っている力や意思を尊重しながら、穏やかな時間が過ごせるような支援を行い、家族の安心にも繋げていきたい。